

<2011年度の成果>

### 1. 雑誌論文

- (1) 仁平尊明 2011. ブラジル・南パンタナールにおける観光業の導入と発展. 地理空間 4(2): 18-42. (査読有り)
- (2) 仁平尊明・橋本雄一 2011. GIS と GPS を利用した農業の空間分析 —農林業センサスのダウンロードから土地利用図の作成まで—. 地理学論集 86: 115-126. (査読有り)

### 2. 学会発表 (\*発表者)

- (1) 仁平尊明\* 2011年11月2日. エネルギー効率から見た北海道農業. 北海道大学サステナビリティウィーク 2011 産学官セミナー 地理空間情報が拓く未来 III. 北海道大学学術交流会館大講堂. (招待講演)
- (2) 仁平尊明\* 2012年1月27日. ブラジルの熱帯湿原におけるフィールドワーク. 第13回地理空間学会例会 / 科学研究費補助金基盤研究(A): フィールドワーク方法論の体系化 —データの取得・管理・分析・流通に関する研究— 第7回研究会. 筑波大学総合研究棟 A. (招待講演)
- (3) 田瀬則雄・山中 勤・林 久善・田村憲司・瀧澤紗史・仁平尊明・小野寺真一\*・Hirata, R. ・Saraiva, F. ・Terada, R. ・Shirota, R. 2012年3月29日. ユーカリ林を組み込んだ土地利用連鎖系による持続的土地利用の実証と体系化 —その1—. 2012年日本地理学会春季学術大会. 首都大学東京.

### 3. 図書

- (1) 仁平尊明 2011. 東北 —豊かな自然とそれに育まれた地方文化—. 菊地俊夫編『世界地誌シリーズ1 日本』121-139. 朝倉書店.
- (2) 仁平尊明 2011. GIS と GPS を利用した農業の空間分析. 橋本雄一編『GIS と地理空間情報 —ArcGIS10 とダウンロードデータの活用—』118-132. 古今書院.
- (3) 丸山浩明・吉田圭一郎・仁平尊明 2011. 生物多様性を支える多様なビオトープ. 丸山浩明編著『パンタナール —南米大湿原の豊穡と脆弱—』23-41. 海青社.
- (4) 仁平尊明・コジマ=アナ 2011. エコツーリズムの導入と発展. 丸山浩明編著『パンタナール —南米大湿原の豊穡と脆弱—』117-146. 海青社.
- (5) 丸山浩明・仁平尊明・宮岡邦任・吉田圭一郎・コジマ=アナ 2011. 伝統的な農場経営とその課題 —バイアボニータ農場の事例—. 丸山浩明編著『パンタナール —南米大湿原の豊穡と脆弱—』187-242. 海青社.
- (6) 丸山浩明・吉田圭一郎・仁平尊明・宮岡邦任 2011. アロンバードをめぐるポリティカル・エコロジー —伝統的な生態学的知識と科学的な生態学的知識の相剋—. 丸山浩明編著『パンタナール —南米大湿原の豊穡と脆弱—』243-273. 海青社.
- (7) 吉田圭一郎・仁平尊明 2011. パンタナールで見られる動植物リスト. 丸山浩明編著『パンタナール —南米大湿原の豊穡と脆弱—』281-288. 海青社.
- (8) 仁平尊明監修 2012. 『帝国書院 地理シリーズ 世界の国々6 北アメリカ州』帝国書院.
- (9) 仁平尊明監修 2012. 『帝国書院 地理シリーズ 世界の国々7 南アメリカ州』帝国書院.

#### 4. フィールドワーク

- ・北海道江別市の小麦栽培（2012年5～6月、9～11月）
- ・北海道豊富町の酪農（2012年5月）
- ・北海道猿払町の水産業（2012年5月）
- ・ブラジル・サンパウロ州のサトウキビ栽培とユーカリ栽培（2012年7～8月）

#### 5. 研究成果の要約（上記2-(2)）

日本の23倍という広大な国土を有するブラジルは、地理的な多様性に満ちている。近年では、BRICsの一因として経済発展が著しく、土地利用も急速に変化している。ブラジルは人文地理学のフィールドワークの対象として最も適している国の1つである。しかし、日本の人文地理学関連では、ブラジルを対象とした組織的なフィールドワークの実績はさほど多くない（例えば、南東部大西洋岸の都市化、ノルデステの土地利用、熱帯湿原・パンタナールの環境問題など）。本研究では、海外におけるフィールドワークの体系化を目指す研究の一端として、筆者が携わってきた熱帯湿原の事例から、ブラジルにおけるフィールドワークの方法を示し、その有効性を考察した。その概要は（1）日本での資料収集、（2）ブラジルの都市部におけるデータ収集、（3）現地（熱帯湿原）でのフィールドワーク、（4）フィールドワークの安全対策である。特に現地でのフィールドワークでは、景観観察、土地利用調査、畜産の調査、聞き取り調査を説明した。熱帯湿原は雨季と乾季とで土地利用が大きく変化するため、従来の地理学で使われてきた地形図などの他に、GPSやGISなどの新しいツールの導入が有効であった。また、これらのツールから得られた資料を十分に活用するためには、農場主や従業員への聞き取り調査やアンケート調査など、現地の人から得られる情報が重要であった。

キーワード：フィールドワーク，地理学，ブラジル，熱帯湿原，パンタナール

#### 6. 2012年度の予定

##### (1) 論文・書籍の執筆

- ・ブラジルの熱帯湿原におけるフィールドワーク方法論
- ・ブラジル・サンパウロ州におけるユーカリ栽培の発展
- ・ブラジルにおける観光産業の発展とその課題
- ・北海道における小麦生産の展開

##### (2) フィールドワーク

- ・北海道石狩平野の水稻作
- ・北海道北見地方の畑作
- ・ブラジル・サンパウロ州のユーカリ栽培